



こどもの杜だより



落ち葉が風に舞い、銀杏並木も美しい黄色に染まり始めました。
 11月3日(土)には、今年も「秋まつり」を開催いたしました。
 皆様にはポスターやチラシの掲示・掲出にご協力いただきまして誠に有
 難うございました。

平成30年度 11月号

社会福祉法人 神奈川民間保育園協会
 児童野外活動センター こどもの杜

秋

まつりにご来場いただき、誠にありがとうございました！カラッと秋晴れの青空の下、今年もにぎやかに開催することができました。近隣の皆様をはじめ、以前お泊り保育や遠足で遊びに来てくれた園児さんたちもたくさんみえました。ポスターの掲示等、ご協力ありがとうございました。



ご予約お待ちしております！

遠足やお泊り保育など、館内団体貸切利用が可能な空き
 日がまだございます！
 なお、ご予約の締め切りはご利用の前月10日までとな
 っておりますので、お早めにお問合せください。

◇1/4(金)、7(月)、8(火)、10(木)
 ◇3/29(金) ※土日祝日の予定はお問合せ下さい。
 ↓お問い合わせは、下記までお願いいたします↓

《10月の団体利用者数報告》

*日帰り：17団体 793名
 *宿 泊： 4団体 129名

ご利用、
 ありがとうございました！



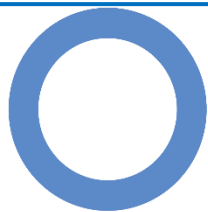
《お問合せ》社会福祉法人 神奈川民間保育園協会 児童野外活動センター こどもの杜
 〒227-0047 横浜市青葉区みたけ台 26-17 TEL: 045-972-7700 FAX: 045-972-7701



HP: <http://www.minpokyo.or.jp/kodomonomori> ☆お気軽にお問合せください☆

11月14日は“世界糖尿病デー”

世界糖尿病デーは、現在 160 カ国から 10 億人以上が参加する世界でも有数な疾患啓発の日となっており、この日を中心に全世界で繰り広げられる糖尿病啓発キャンペーンは、糖尿病の予防や治療継続の重要性について市民に周知する重要な機会となっています。



world diabetes day
14 November

世界糖尿病デーのキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」が用いられますが、これは糖尿病に関する国連決議が採択された翌年 2007 年から使われているシンボルです。

国連や、どこまでも続く空を表す「ブルー」と団結を表す「輪」をデザインし“United for Diabetes”（糖尿病との闘いのため団結せよ）というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

《世界で6秒に1人の命を奪う糖尿病》

糖尿病は今や世界の成人人口のおよそ 88% となる 4 億 1500 万人が抱える病気です。

現代は、コンビニエンスストア、ファーストフード店などの普及により、食べたい時にいつでも気軽にジュースやスナック菓子、ファーストフードなどを気軽に購入し食べる事ができるため、子どもたちは間食などで糖分や脂肪分を摂りすぎる傾向にあります。子どもの頃から健康的な食生活を習慣づけることは、世界的な糖尿病発症予防につながります。

(栄養士 大浦)

飼育の現場から...

今回は、こどもの社の動物飼育員の業務と動物たちへのケアについて少しだけご紹介させていただきます。

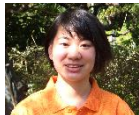
《飼育員の紹介》



前原



古瀬



綾戸

社の動物飼育員は 3 名、全員動物飼育の専門課程を卒業しています。普段は、動物たちの飼育作業の他、ポニー乗馬や動物ふれあいの対応もさせていただいております。

また法律で義務付けられている動物取扱責任者講習にも参加し、新しい情報を取り込み、現場に生かせるようにしています。

今年の動物取扱責任者講習のテーマは「人畜共通感染症」でした。響きは怖いですが、動物の取り扱い方法を誤らなければほとんど問題になる事はありません。大切なのは「動物をさわったら手を石鹸で洗う」ということ。これだけでも感染の危険性は大きく低下します。そのため、動物ふれあいの際にはお客様に「手を洗って下さいね」と必ずお声掛けしております。

《動物たちの健康も守っています》

心と身体の健康が大切なのは人も動物も同じ。そのため、時には獣医さんや専門の先生の手を借り、様々なケアもしています。

◆ワクチン接種：ポニー

病気の発症や感染を予防します。

◆削蹄（さくてい）：ポニー、ミニブタ

爪を整える事により、健康的な歩行が維持できます。

◆散歩・放飼：ポニー、ヒツジ、鶏、アイガモ

ストレス解消と適度な運動になり、心身の健康維持につながります。

◆馴致（じゅんち）：ポニー、ヒツジ

人と楽しくふれあうことにより、人へのストレスを減らします。

適切な飼育管理を行うことにより、動物と人間との相互感染を防ぐとともに、動物の健康維持に努め、安全で楽しい動物とのふれあいの場を提供できるようにこれからも努力してまいります。

(動物飼育員 前原)

